短甲・冑，刀剣類

古墳や地下式横穴墓などの副葬品には，銅鏡のほか，須恵器や土師器などの日用品，短甲・冑，刀剣類などの武具・武器，馬具，装飾品など様々なものがあります。

短甲は，形状が４世紀後半に統一され，帯状の鉄板で組んだ枠に，長方形や三角形の鉄板を革で綴じた長方板革綴短甲や三角板革綴短甲が生産されるようになりました。その後，革の代わりに鉄の鋲で留める鋲留短甲が量産されるようになります。これらは全国各地で出土していますが，県内では出土例が少なく，復元・展示されているのは，祓川地下式横穴墓のものだけです。

短甲（六野原地下式横穴墓群）
宮崎県立西都原考古博物館

馬具（馬頭13号地下式横穴墓）
宮崎県立西都原考古博物館

上：象嵌装大刀レプリカ　下：象嵌装大刀 県指定有形文化財（考古資料）
（中尾地下式横穴墓）　鹿屋市教育委員会

刀剣類は，県内でも出土例は多く，武器として使用された刀や剣のほかに，蛇のように曲がっている蛇行剣や意図的に折り曲げられた鉄器も出土しています。これらは実用的なものではなく，呪術的，儀式的なものと考えられています。

左：刀子　上：鉄剣　重要文化財（考古資料）
（向野田古墳※）　熊本県宇土市教育委員会

祓川地下式横穴墓

所在：鹿屋市　　県指定有形文化財（考古資料）
時期：６～７世紀

衝角付冑　　短甲
（祓川地下式横穴墓）　鹿屋市教育委員会

昭和２５年，西祓川公民館近くの道路工事中に発見された地下式横穴墓から，短甲，衝角付冑，直刀などの武具・武器が出土しました。

短甲は，鉄板を何枚か組み合わせて鉄の鋲でつなぎ，正面から開閉して着用するように蝶番式に作られています。槍や刀の攻撃から身を守るものです。

衝角付冑は，形が古代の軍船の舳先（衝角）に似ていることから，このように名付けられています。

装飾品

白金崎古墳（長島町）では，鉄鏃や刀子のほか，ガラス，琥珀，水晶などで作られた勾玉，丸玉，棗玉などの玉類や，銅に金箔を貼った金環などが副葬されていました。埋葬者は，石材の種類やガラスの色，金銅製品などで権威を示したと考えられます。

持田古墳群（宮崎県児湯郡高鍋町）では，翡翠などで作られた大型勾玉が多数，向野田古墳（熊本県宇土市）では，碧玉製車輪石の腕輪や翡翠製勾玉など（重要文化財）が出土しています。

※　向野田古墳出土品（重要文化財）展示：２月１日～３月22日

左：勾玉，丸玉，棗玉（白金崎古墳）
鹿児島県歴史資料センター黎明館
右：大型勾玉レプリカ，翡翠製勾玉レプリカ
（持田古墳）　宮崎県立西都原考古博物館

勾玉　重要文化財
（向野田古墳※）
熊本県宇土市教育委員会

上野原縄文の森 第41回企画展

古墳時代のかごしま
～1,500年の時を越えて～

企画展データファイル 41
2014.11.28 ～ 2015.3.22

■ お問い合わせ
（公財）鹿児島県文化振興財団
上野原縄文の森
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森1-1
TEL 0995-48-5701 FAX 0995-48-5704
URL http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail uenohara@jomon-no-mori.jp

近年，畑地の陥没により発見された塚崎古墳群の地下式横穴墓や外溝の存在が確認された横瀬古墳，大規模な集団墓地が判明した立小野堀遺跡など，鹿児島の古墳時代がさらに明らかになってきています。

今回の展示では，鹿児島の古墳時代について，他県の資料との比較も交え，南九州の墓の形態や分布状況，副葬品，住居内遺物などを紹介しています。

古墳時代

盛り土をしたり，自然の地形を利用したりして造られた高塚式の墓を古墳と呼びます。

高塚の上には埴輪が置かれ，内部には副葬品として遺体とともに，鏡や玉類，武具などが納められるという特徴があります。各地を治めていた豪族が，その権力を誇示するために大規模な古墳を造ったり，豪華な副葬品を納めたりしたと考えられています。

前方後円墳が登場した３世紀末からそれが衰退していく６世紀後半にかけて，大和（奈良県）をはじめ，日本各地で盛んに古墳が造られました。この時代を古墳時代と呼んでいます。

塚崎古墳群

所在：肝属郡肝付町
時期：５世紀前半　国指定史跡

前方後円墳５基，円墳 39 基のほか，平成 26 年４月，畑の一部陥没により 19 番目の地下式横穴墓が確認されました。

祭祀に伴って地域外から搬入されたもの，またはこれらを模して製作されたと考えられるものが出土しました。また，壺形埴輪や初期須恵器を含む土器群も出土しました。

31 号墳に伴う周溝を切って造った地下式横穴墓

横瀬古墳

所在：曽於郡大崎町
時期：５世紀中頃　国指定史跡

全長約 129mの前方後円墳で，県内で２番目の大きさです。

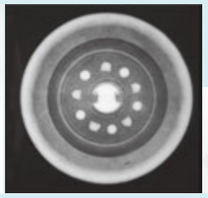
墳丘・周溝跡から多数の円筒埴輪・形象埴輪が採集されており，平成 22・23 年度の確認調査で内溝と外溝の二重周溝を備えた古墳であることが分かりました。

古墳の周囲の畑地に浮かび上がる周溝
写真：大崎町教育委員会

天辰寺前古墳

所在：薩摩川内市　　県指定史跡
時期：５世紀　　出土品：県指定有形文化財（考古資料）

銅鏡



銅鏡レントゲン写真

刀子　薩摩川内市教育委員会

直径 27 ～28m，高さ約３mの円墳と考えられ，墳丘の中央部には竪穴式石室を設けています。石室の内部は良好な状態で残っており，貝製腕輪を装着した人骨片や副葬品の鉄製刀子，銅鏡が出土しました。

展示資料データ

遺跡数	展示資料数	展示パネル数
31	163（一括展示含む。）	90

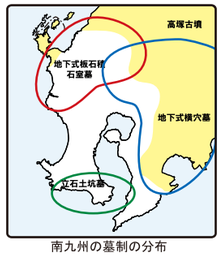
銅鏡

古墳時代の鏡の出土例は，天辰寺前古墳や神領６号墳（天子ヶ丘古墳）など数例しかなく，直径 10cm 程度のものです。

持田古墳群（宮崎県児湯郡高鍋町）や若八幡宮古墳（福岡市）では，直径 20cm を超える銅鏡が出土しており，そのレプリカを展示しています。

左前：銅鏡　天辰寺前古墳　薩摩川内市教育委員会
左奥：画文帯同向式四神四獣鏡レプリカ　持田古墳群
宮崎県立西都原考古博物館（原品 重要文化財，所蔵：耕三寺博物館）
右２面：三角縁二神二獣鏡レプリカ　若八幡宮古墳
九州歴史資料館

南九州の墓制



南九州の墓制の分布

３世紀末から４世紀には，近畿地方を中心に日本列島の各地で，土を盛り上げて造る高塚古墳と呼ばれる大きな墓が造られるようになり，５世紀までには東北から九州まで分布するようになりました。

しかし，南九州では，高塚古墳を造るようになるとともに，南九州独特の「地下式横穴墓」「地下式板石積石室墓」や，墓石のように石を立てた「立石土坑墓」が造られるようになりました。

地下式横穴墓

地表から深さ約２mの竪穴を掘り，その竪穴の底から横方向に掘り進め，羨道（竪穴から玄室へ向かう道）と玄室（棺・遺体を納める部屋）を造る墓です。遺体を埋葬した後は，羨道を土のかたまりや軽石，木材等でふさぎ，竪穴を埋め戻します。

地下式横穴墓（鹿屋市 立小野堀遺跡）

立石土坑墓

長方形あるいは楕円形・円形の穴を掘り，そこに遺体を埋葬する墓です。その一角に板状の石を立て，立石の周りに壺などが供えられています。

立石土坑墓は，薩摩半島の南部などに見られます。

立石土坑墓（指宿市 南摺ヶ浜遺跡）

地下式板石積石室墓

地表から深さ約１mの竪穴を掘り，この竪穴の底に扁平な板石で方形や円形の石室を造り，天井は，板石を魚の鱗のように積み上げてドーム状に屋根を覆う墓です。

板石積石棺墓ともいわれ，主に人吉盆地や川内川流域で見られます。副葬品の多くは，鉄剣や鉄鏃などの鉄製の武具です。

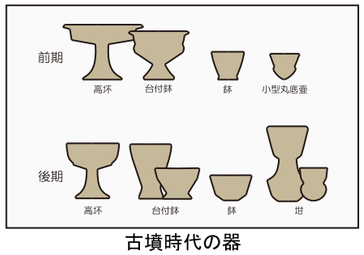
地下式板石積石室墓（薩摩川内市 横岡古墳）

出土品から見える当時のくらしと世相

古墳時代の食器・煮炊き具・貯蔵具・祭祀具

食器　は，主に土器・須恵器で作られていました。木製食器はまだ確認されていません。

古墳時代前期には，高坏と呼ばれる大型の器と，台付，平底，丸底の鉢が日常的な食器として用いられていたと考えられます。



古墳時代の器

古墳時代後期になると，小型の高坏や鉢が増加します。このことから，古墳時代の前期には数人分をまとめて盛った器で食べ，後期では一人一人器に盛り分けて食べるスタイルに変化したと考えられます。

飲み物の器　は，飲み物を注ぐ鐎やコップの用途の坩などが使用されました。

竪穴住居跡などの出土品

また，同時期には，朝鮮半島から技術が導入され，窯で焼成された須恵器が食器としても使用されるようになりますが，南九州では非常に少ないです。

煮炊き具　は，主に，南九州特有の成川式土器の甕が使用され，古墳時代前期後葉頃からは，畿内や九州の中・北部でつくられた土師器の甕も，少数ですが一部の地域で使用されました。

貯蔵具　は，成川式土器の壺などが使用されました。穀物などを壺に入れて貯蔵しました。壺形土器は，底の形が平らなものから丸いものに変化していきました。

祭祀具　は，赤色の顔料を塗り，表面を磨いた高坏や坩が使用されました。

埴輪と石人・石馬

埴輪とは，古墳の墳丘上に立てて並べられた，主に素焼きの土製品のことで，大きく分けて円筒埴輪（筒状・壺状のもの）と形象埴輪（人や鳥・馬などの動物，盾・甲冑などの武器や家などをかたどったもの）に分けられます。

石人・石馬は，九州北部でよく見られるもので，大陸の文化の影響を受けたという説や，加工しやすい石材が身近にあったため埴輪が変化したという説などがあります。

鹿児島でも埴輪の出土例はありますが，今回展示している横瀬古墳の円筒埴輪や神領 10 号墳の盾持人埴輪などごくわずかです。

奥：石人・石馬　写真，熊本県八女市教育委員会
盾持人物埴輪，盾持ち人埴輪　九州歴史資料館 宮崎県 新富町教育委員会
中：柵形埴輪，家形埴輪，円筒埴輪　宮崎県 新富町教育委員会
前：円筒埴輪　大崎町教育委員会

神領10号墳

所在：曽於郡大崎町
時期：５世紀前半

神領１０号墳では，県内で初めて出土した盾持人埴輪のほか，古墳からの出土としては，大阪府野中古墳に次ぐ全国第２位の数となる初期須恵器（愛媛県伊予市市場南組窯産）が，ほぼ完全な状態で見つかっています。

盾持人埴輪は，眉庇付冑というカブトをかぶり，小鼻もある高い鼻や頬骨の盛り上がりなど，非常にリアルに表現され，全国的にも大変珍しいものです。この地域が，近畿地方などと活発に交流をしていたことが窺えます。

神領 10 号墳　出土品　鹿児島大学総合研究博物館

古墳時代年表